

別記様式第6

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (経済学) Ph.D. in Economics	氏名 (Candidate Name)	MUHAMMAD TASHFIQ HUQ
学位授与の要件	学位規則第4条第① 2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) Structural Change in Asian Economies: Findings from Novel Sectoral Approaches Using Input-Output Tables			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)		教授 市橋 勝	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教授 金子 慎治	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教授 後藤 大策	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教授 柿中 真 (立命館大学経済学部)	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、アジア経済を中心とした構造変化が中長期にどのように起こっているか、その産業別変遷の特徴は何かを明らかにしようとしたものである。基本的な方法論はアジア各国の産業連関表の要因分解法となっている。</p> <p>論文の構成は、次のとおりである。</p> <p>第1章では、研究動機と意義（長期にわたるアジア諸国の産業構造の変化をどのように把握するのか）を説明し、第2章では、加速的成長産業の特定化に関する従来の要因分解法の改良についてとその適用結果を、バングラデシュ経済を中心例にして述べている。</p> <p>第3章では、アジア6か国の発展途上国において古典的な経済発展論が主張する成長産業のサイクルを確認できるのか、要因分解法によって描き出している。第4章では、世界経済におけるサプライチェーンの構造変化を垂直的統合指標によって把握し、アジア18か国の分析から特徴的な傾向を指摘している。</p> <p>本論文は、次の3点で高く評価できる。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 従来知られていた構造変化の要因分解法に改良を加え、より長期（10年間）の推移から加速的成長産業を特定し、それが従来法によっては見え難かった点をバングラデシュ経済を例にとりて明らかにしたこと。2. 古くから知られた経済発展の産業別サイクル、国際間分業の状況がアジアの低所得国においても確実に見られることを新たな要因分解法によっても確認できると示したこと。3. アジア18ヶ国のサプライチェーンにおける国内市場依存と海外市場依存の状況の比較、その経年的トレンドを、新指標によって計算し推移パターンを分類して見せたこと。 <p>なお、本論文の2章部分は、インパクトファクター付き国際誌に既に掲載済みとなっている。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士（経済学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			
令和 5年 8月 1日			

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)